伝統建築の空間構成の応用可能性

~秋田県増田町の内蔵民家を対象として~

工学研究科 建築学専攻 冨永研究室

須貝 孝太

研究背景

増田町の民家は鞘に内包された内蔵をもつという独特の形式を持つ。2013年12月 に伝統建造物群保存築に指定され、その建築をを観光資源とした観光地化が進められ ている。しかし、伝統建築については物理的な保存と街並の統一に重点が置かれ、増 田の特徴とも言える豊かな内部空間は無視されている。この現状が続けば、外観ばか りが伝統建築に似ており、内部には増田と無関係な空間が広がる建築が溢れることは 想像に難くない。この問題を背景とし、本研究では素材や工法に依らない伝統建築の 継承を提案することを目的とする。

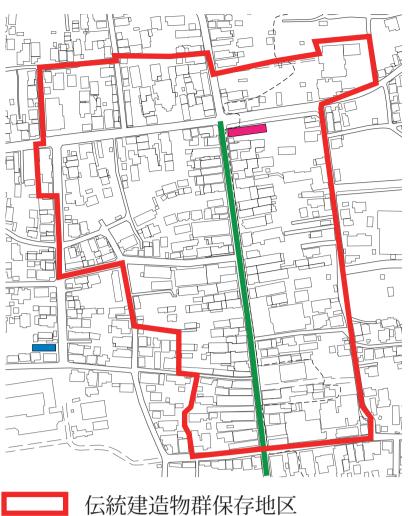
研究手法

2. 調査及び増田町について

対象敷地①

主街道

対象敷地②

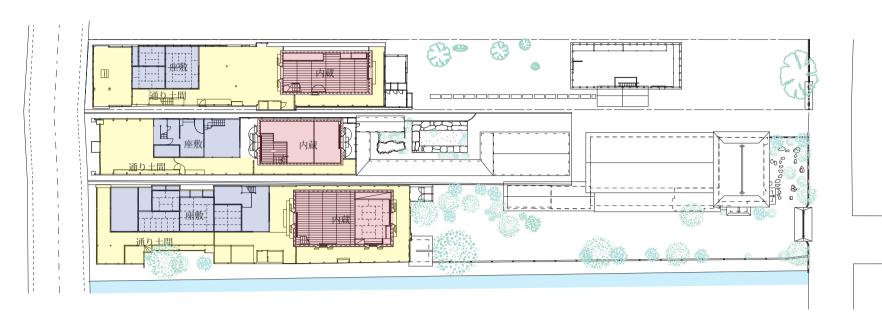


昔の町並みが現在まで引き継がれている





特に伝建地区外での景観の破壊が進んでいる



典型的な伝統建築の形式

調査 .3

山吉肥料店 蔵前土間

主街道側にミセ、南側に裏庭まで続く通り土間を持つ。主街道側からミセ・仏間・座敷・居間・台 所・土間・内蔵と並ぶ。通り土間は地域住人が近道に通り抜けに利用することもある。

伝統建築の空間構成を分析し増田の特有の空間を形成する要因を発見、それを抽象 化し現代の設計提案に応用する。設計提案は伝統建築と同規模・異用途、小規模・同 用途の2提案を行うことで、伝統建築の空間構成が新築の提案に応用可能であり、ま た今後のまちづくりにおいて有効であることを示す。

調査 .1

町割りの形成には江戸時代に「ミセ賃」と呼ばれる間口にかかる税金や水路等が影響していると考えられる。 水路は町割り以外にも生活用水や融雪に利用されており、現在でも生活と密接に結びついている。また、俯瞰 的な目線で見ることで内蔵の配置が概ね揃っていることがわかる。このことから、内蔵の配置や建物の建ち方 において、全ての家に共通する形式があることがわかる。



建物と並行する水路

積雪と水路

調査 .2

パブリックとプライベート

ハイサイドライト

中 6- 山中吉助商店

通り土間や座敷(仏間・居間等)には吹き抜けが設けられている。採光を補助するこ

とが目的であるが、上下階、パブリックな部分とプライベートな部分に繋がりを生み

冬季の採光

吹き抜け

出し、空間的な変化をもたらす。

吹き抜け

店を持ち冬は地域住人の通り道としても利用されるため、通り土間には不特定多数の人が出入りをしており、そ れらの人の侵入度合いを建具により調整している。通り土間と建具を組み合わせて利用することで、パブリックと プライベートを緩やかに分節している。

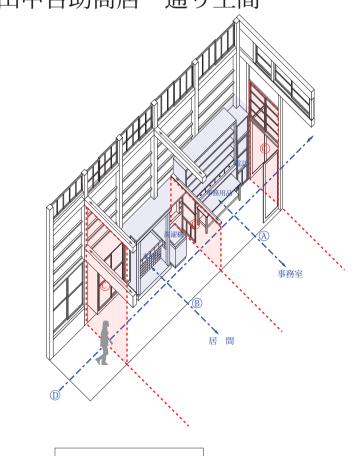
棟間隔が狭く雪が高く積もる増田では、通り土間に設けられたハイサイドライドが主な採光源となる。積雪面よ りも高い位置に設け、積もった雪がレフ版のような役割を果たすため、冬でも一定量の採光を得ることができる。

断面図 1/200 N







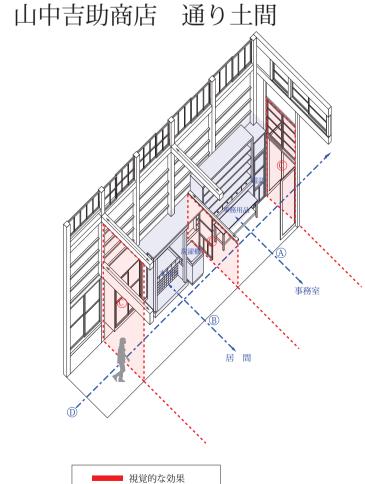


通り土間にものが溢れ出している。無秩序に溢れるのではなく事務 室の前には電話や事務用の棚など、居間の前には流しなどのように、 座敷の用途と対応するものや設備が配置される。 また半透明アクリ ルの天井やガラス戸は、空間を分節し断熱効果を期待しながらも採光 を得ようとしていることが分かる。

蔵前板間部分は寒さ対策のためにアクリルと木材でボックス状に増

築されている。2階へのアプローチは板間の階段を利用するため、入れ

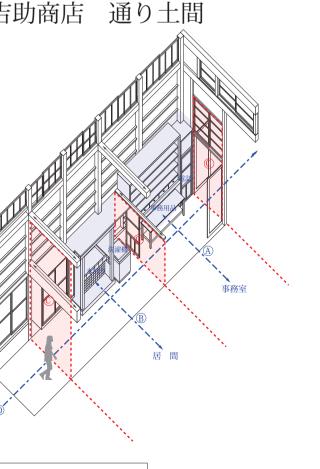
子状の空間を出入りするような空間体験を得ることができる。

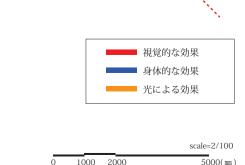


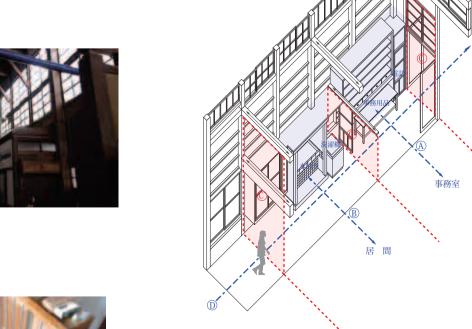


視覚的な効果

身体的な効果









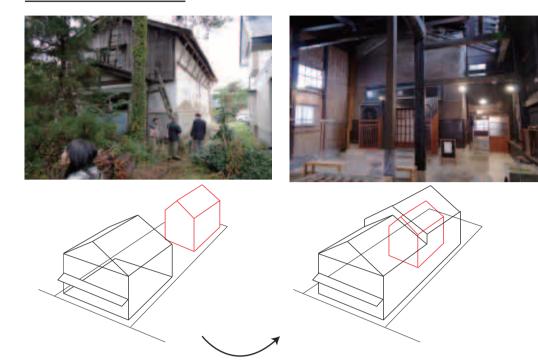
増田の空間の特長

伝建地区内のデザインサーヴェイを行いその調査結果から、増田の伝統的な建築の内部の空間構成において重要な要素として、内蔵・通り土間・重層を挙げる。内蔵は増田に共通す る形式を、通り土間は共通する形式としない形式をそれぞれ有している。重層は特定の部分を示すものではないが、自然環境・社会環境に対する解答や、増改築による空間の変化など を指す。これらの要素を分析・抽象化し、設計提案へつなげる。

内蔵

内蔵の配置や使い方が変化する背景には、町の産業の変化した時や大火などの社会的な転換があったことがわかっている。 このことから内蔵は、増田町の社会的な文化を反映していると言う事ができ、観光地化や敷地の細分化が進む現代において、 新しい内蔵のあり方があるのではないか。

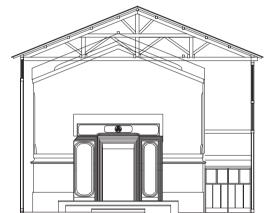
1. 蔵の内部化



外部にあった蔵が、積雪時に利用し難い。産業の変化によ り金庫のような機能が必要となったことなどから内部化され

3. 外部的なスケール





2. 磨き漆喰



内蔵は磨き漆喰という特殊な技法によっ て仕上げられている。黒光りする継ぎ目の 無い仕上げが、量塊感・異物感を生み出し ている。

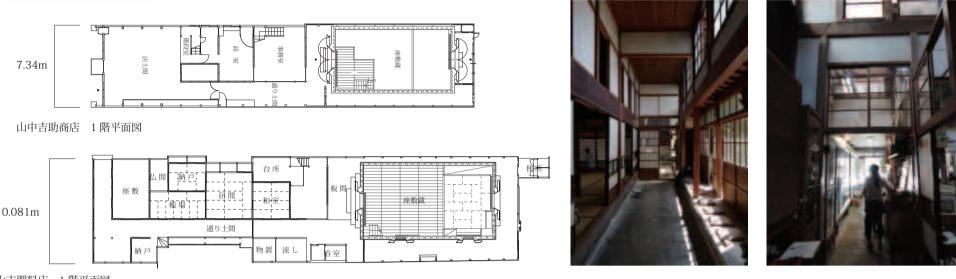
外にあった蔵をそのままの大きさで内部化したた め、内部空間に外部的なスケールの空間が生じた。 大きさ以外にも内蔵と鞘に対照的な素材が使われて いることも挙げられる。

大きな空間を利用し増改築が行われやすい。

通り土間

通り土間は建物内の南側に配置され、主街道から裏庭まで一本で繋がるという形式がある一方で、各家で異な る様相も見せている。

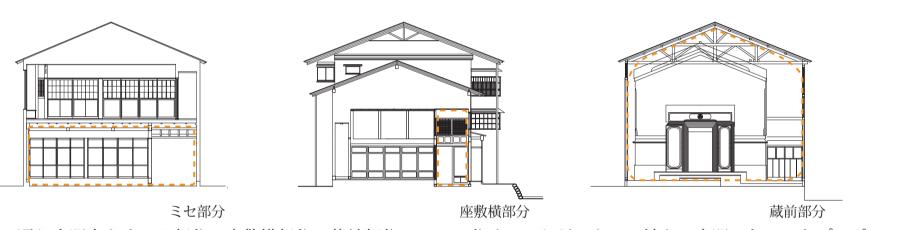
1. 用途の変化



山吉肥料店 1 階平面図

通り土間の用途は間口幅と関係している。間口が狭いと棚や流しなどの生活機能が通り土間にあふれ出す傾向があり、 間口は場が広いと縁など生活に必需で無い機能を設ける傾向がある。

2. プロポーション

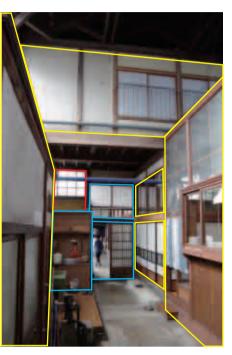


通り土間大きくミセ部分、座敷横部分、蔵前部分の3つに分けることができ、一続きの空間であってもプロポーション が変化する。

重層

豪雪という自然環境的要因と、店舗を持ち多数の人が出入りするという社会環境的要因によって、増田の 町屋は重層的に構成されている。それらは主に素材の変化という形で表れており、異なる層によって構成さ れる部屋はそれぞれ違った様相を示す。また、異なる室の部屋が自然に隣り合うため、空間体験が複雑で豊 かなものになる。







層	発生要因	位置	機能	素材・建具	構成
1			防風雨雪	木、トタン、ポリカ	外/内
2	自然的環境から	通り土間と平行	断熱	障子、アクリル、ガ ラス、土	内(外/内)
3	社会的環境から	通り土間と直交	社会との切断	のれん、板壁、板戸、 ガラス戸、木枠	内(外/外) 内(外/内)
4			個人の切断	襖、障子、板戸、屏風、 布、壁	内(内/内)

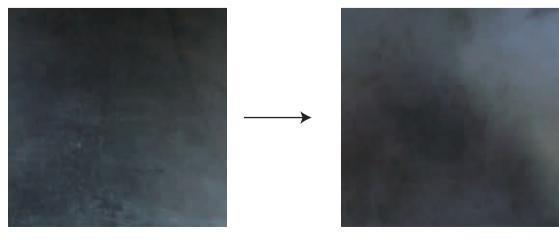
抽象化

抽象化.1

配置の変更 外蔵 内蔵 浮蔵 断面の蔵の配置のイメージ

内蔵は時代によって敷地内での配置や用途が変化している。現代において敷地の細分化された敷地に 対応して、内蔵は2階に持ち上げられ建物全体がコンパクトになる。

素材の変更



磨き漆喰 増田の伝統的な技法

黒皮付き鉄板

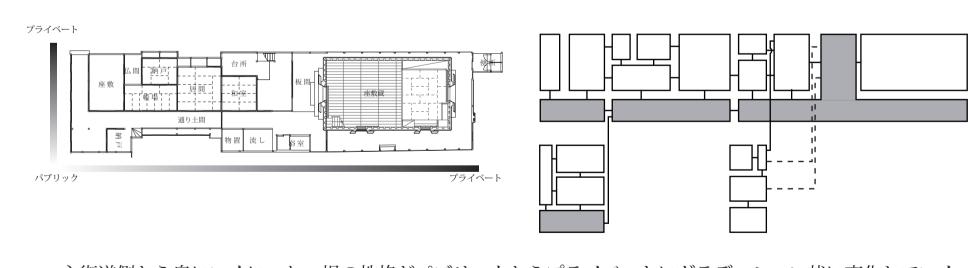
現代で代替可能な素材

変更をする。現在でも手に入り施工が 可能なもので、かつ黒く鈍く光る素材 として、黒皮つきの鉄板を使用する。 張り付ける際はスケール感を狂わせる ために 600mm のタイル状に加工し斜 めに張り付ける。

異物感・量塊感を残すために素材の

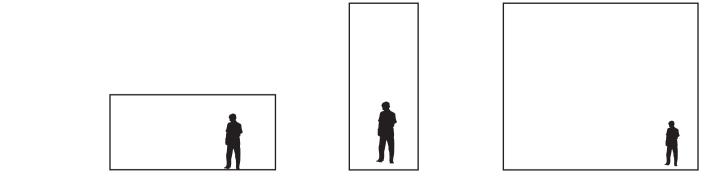
抽象化.2

室の関係性



主街道側から奥にいくにつれ、場の性格がパブリックからプライベートにグラデーション状に変化していく。 通り土間を利用したこのゾーニング (平面計画の形式)を抽象化し、室の関係性のみを抽出する。これによっ て異なる規模の敷地への転用や異なる用途への置き換えが可能となる。

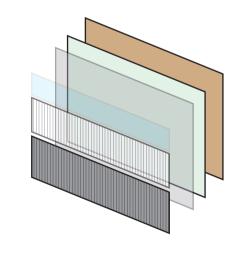
プロポーションの踏襲

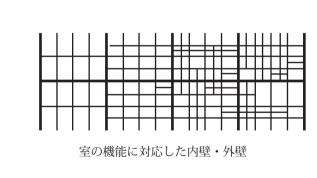


通り土間の特性を長い一続きの空間から、プロポーションが規則的な変化をする連続した空間と捉える。

抽象化.3

自然に対しての重層

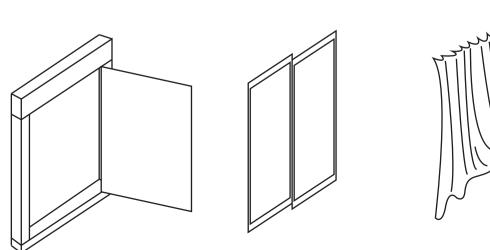




外壁を一枚の壁ではなく、外装材、 通気層、防湿層、下地材、構造材、内 装材等の複数の層によって構成されて いる。外壁を接する部屋の機能に応じ て細かくデザインする。

光が透過する素材を使うことによっ て、格子が外に見えるようになり、内 部空間が外観に影響を与えることがで きる。

社会に対しての重層

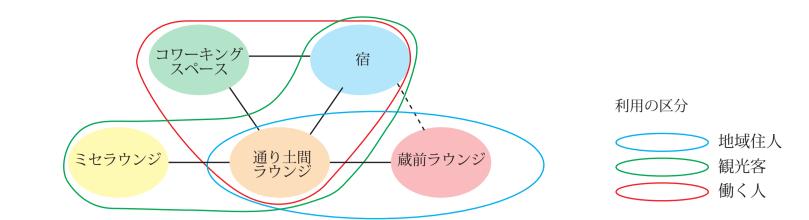


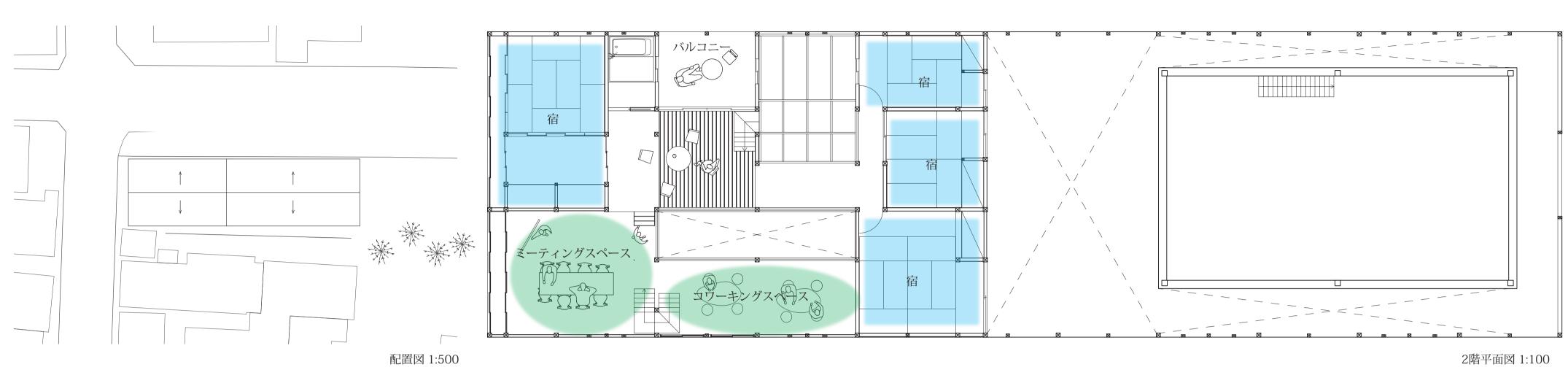
壁と扉で文節をするのではなく、扉・襖・ 障子・カーテンなどの様な、強弱のあ る建具を必要に応じて選択する。 自然に対しての重層と組み合わさるこ とで、室が多様な要素で構成される。

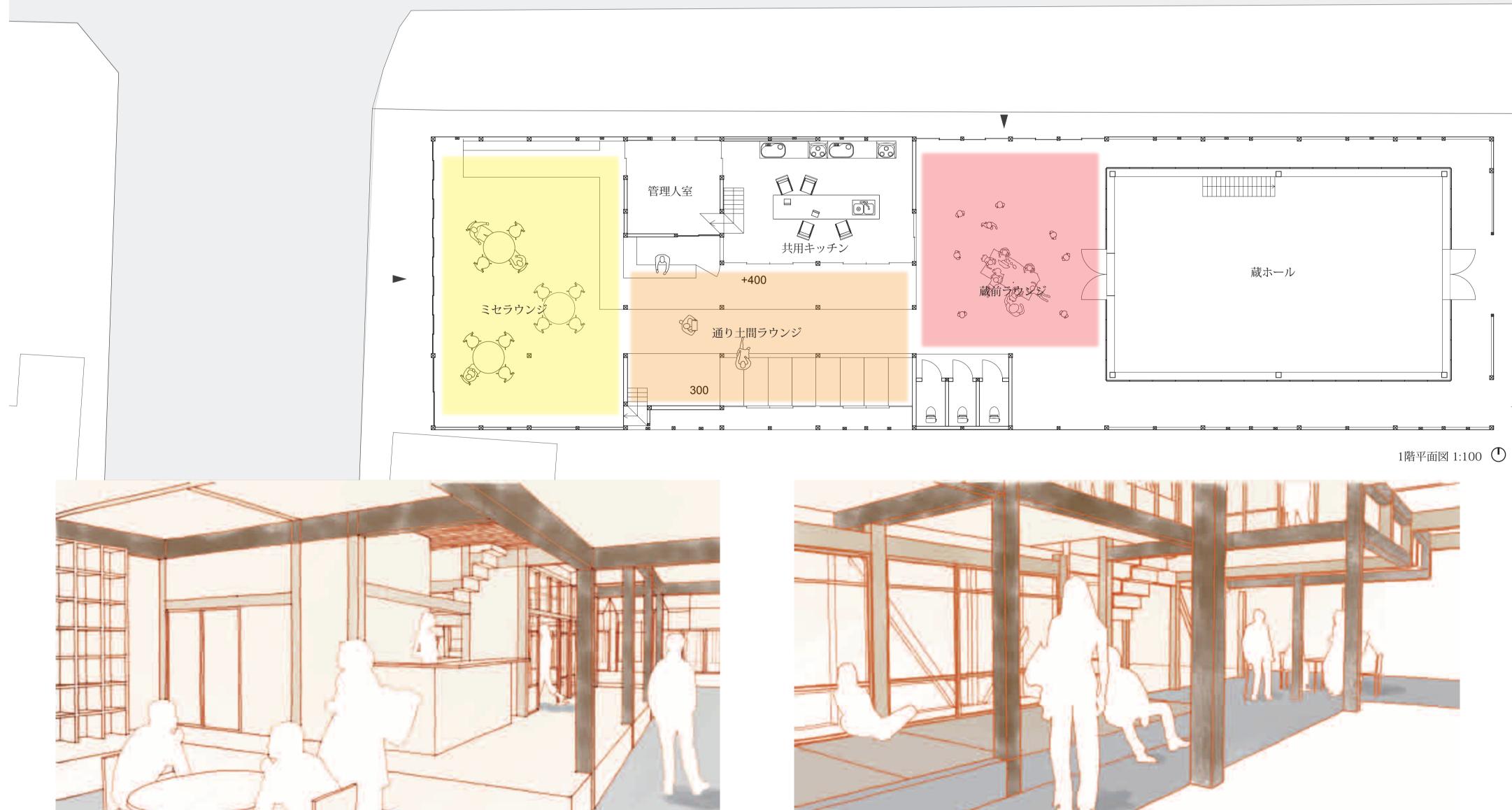
宿泊施設、コワーキングスペース、用途の異なる3つのラウンジ、ホールを持つ複合施設を計画する。

地域住人・観光客・働く人が使うスペースが少しずつ重なり合うように機能を配置することで、増田を訪れる人たち に自然な交流を生み出す。

増田での短期滞在と仕事の場をつくることで I・U ターンでの移住の受け皿とし、観光客と地域住人の間に見る / 見られる以外の関係を生み出す。







ミセラウンジは地域の郷土料理を提供するカフェを開いたり、増田に移住し 店を開くことを考えている人に貸し出すことも可能。



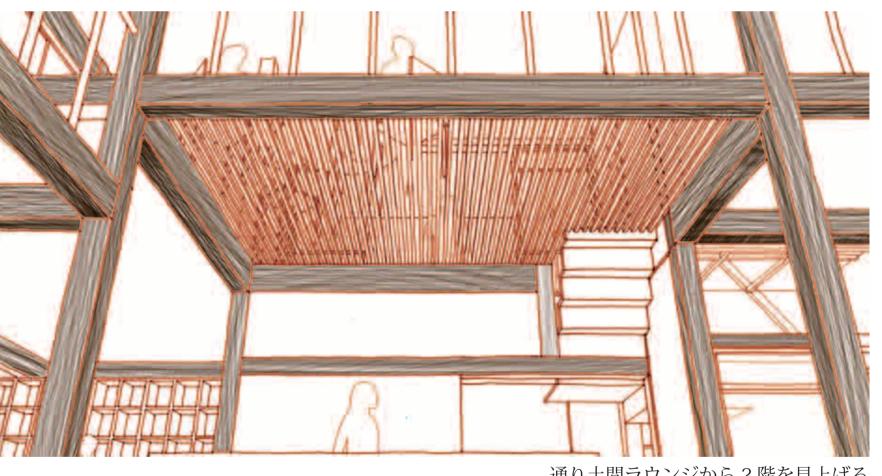
地域住人も利用できるものとし、町人同士の交流にも利用される。



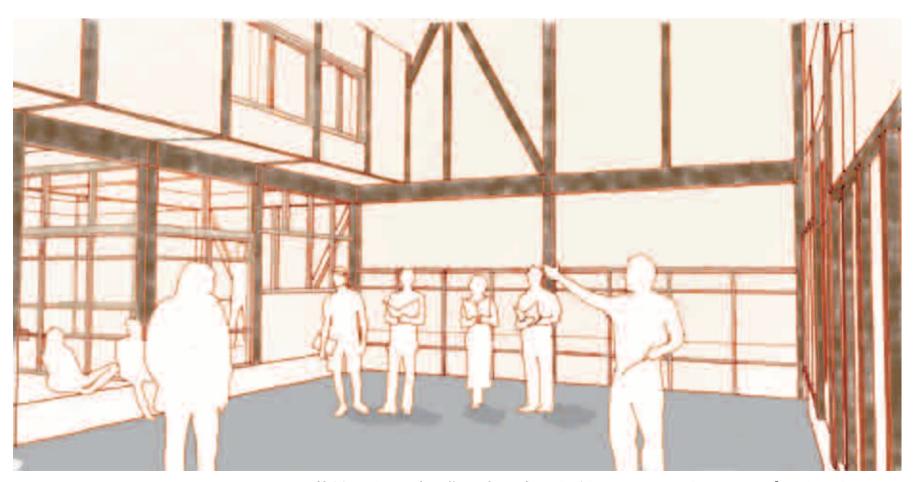
コワーキングスペースと2階利用者のラウンジ。吹き抜けによって 通り土間ラウンジとつながる。



通り土間からコワーキングスペースを見上げる。

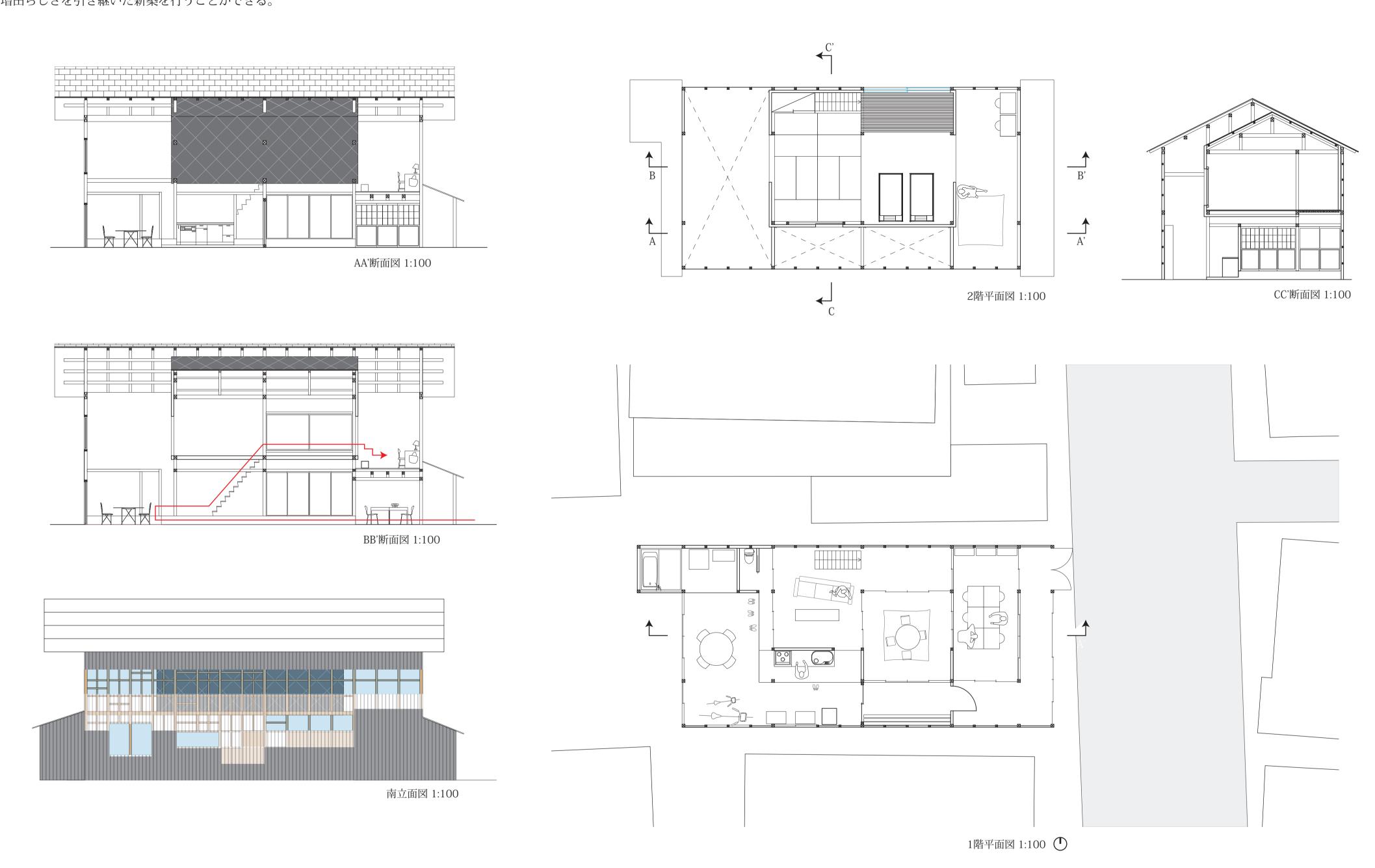


通り土間ラウンジから 2 階を見上げる

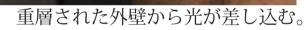


蔵前ラウンジは背の高い空間を利用してワークショップやサークルの 練習場所として利用できる。

中長期滞在、定住者に向けた現代版小町屋の提案。奥行きの長い平面を捻じ曲げるように2層に折り曲げて蔵を浮かせることで、狭い敷地でも伝統的な室の関係性を保持させる。抽象化された要素を設計に織り込むことで、伝統建築でなくとも、増田らしさを引き継いだ新築を行うことができる。









木造の家の中で異質な存在となる内蔵。









雑多な1階と真逆な内蔵。

浮いた蔵を見上げる。